



**2024年2月期
第3四半期決算説明資料**

2024年1月11日

株式会社ツインバード 証券コード：6897

2024年2月期 第3四半期（累計）決算ハイライト

売上高は巣ごもり需要の反動減に加え、電気代や物価上昇による生活防衛意識の高まりから、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けて前年同期より減収

利益面は為替相場の円安による原価高騰の影響を受けたものの、前年下期に実行した価格改定、新製品の導入、原価低減効果により売上総利益は前年同期比68百万円^{※2} 売上総利益率は前年同期比 2.4pt改善^{※2} 前年同期より営業損失を圧縮し改善

売上高

69.5億円
(前年同期^{※1} 73.2億円)

四半期純利益

△1.8億円
(前年同期^{※1} △2.4億円)

売上総利益率

31.6%
(前年同期^{※1} 29.2%)

家電製品事業
セグメント利益*

2.5億円
(前年同期^{※1} 1.3億円)

営業利益

△2.9億円
(前年同期^{※1} △4.3億円)

FPSC事業
セグメント利益*

1.2億円
(前年同期^{※1} 1.3億円)

経常利益

△2.4億円
(前年同期^{※1} △3.2億円)

自己資本比率

73.6%
(前期末比 +0.5pt)

*調整額（全社費用 6.6億円）を除外
※1 連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております ※2 前年同期の単体数値との比較

2024年2月期 第3四半期（累計）決算のポイント

■ 第3四半期（累計）業績

※ 前年同期の単体数値との比較

- 家電製品事業は、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けて前年同期より減収
一方、匠の技術・暗黙知を家電の力で具現化する「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーメーカーは需要期に入ったこともあり販売好調に推移し、また戦略的新製品「匠ブランジェトースター」を昨年11月17日に全国の家電量販店やECサイトなどで発売を開始
- FPSC事業は、米国向けワクチン用運搬庫がコロナ禍収束に伴い販売一巡したため前年同期より減収
- 利益面は為替相場の円安による原価高騰の影響を受けたものの、前年下期に実行した価格改定、新製品の導入、原価低減効果により売上総利益は前年同期比68百万円※ 売上総利益率は前年同期比 2.4pt改善※ 前年同期より営業損失を圧縮し改善

■ 通期業績予想（2023年4月12日公表値から変更なし）

- 長期にわたり製造コストが高止まりする環境の中、昨年9月5日に家電製品の5%以上の価格改定を実施
また匠ブランジェトースターは、高いデザイン性と匠の技で焼きたてパンを再現する卓越した機能が大変好評となり、発売から年度末までの4ヵ月間で約2万台、当初計画の約4倍の販売を見込む さらに需要期である新生活商戦に向けて、当第3四半期に続き、冷凍冷蔵庫・全自動洗濯機などの生活必需品の新製品を続々と投入、売上高の伸長を図る
- 新商品開発投資を継続しながらも、原価低減活動や物流費の圧縮、経費削減を実行し、さらなる収益性の改善を図る
変動費率を低減し損益分岐点を引き下げるとともに、売上高の伸長により当第4四半期は大きく業績が向上する見込み
- FPSC事業の注力4分野のうち、燃油検査や温度校正分野において北米・欧州を中心とする多くのメーカーに採用拡大
医薬・バイオ分野においては、需要が拡大する細胞凍結保存領域の開拓を進める
- 当社のFPSC技術は、低温から極低温の温度領域では、同じ空間に搭載する場合においてコンプレッサより冷凍能力が高い
この特長を活かして、需要拡大が見込まれる医薬品保管・搬送の市場を中心に利用領域を拡大

目次

1. 2024年2月期 第3四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 第4四半期の取り組みについて

補足資料：四半期別業績数値

目次

1. 2024年2月期 第3四半期（累計）決算概要

2. 2024年2月期 通期業績予想

3. 第4四半期の取り組みについて

補足資料：四半期別業績数値

2024年2月期 第3四半期（累計） 損益概況

売上高は巣ごもり需要の反動減に加え、電気代や物価上昇による生活防衛意識の高まりから、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けて前年同期より減収

利益面は為替相場の円安による原価高騰の影響を受けたものの、前年下期に実行した価格改定、新製品の導入、原価低減効果により売上総利益は前年同期比68百万円※2 売上総利益率は前年同期比 2.4pt改善※2 前年同期より営業損失を圧縮し改善

(参考)

単位：百万円	2023年度	2022年度 ※1	2023年度
	個別 3Q 累計実績	連結 3Q 累計実績	通期個別 業績予想
売上高	6,952	7,320	11,000
売上総利益	2,197	2,136	
売上高比	31.6%	29.2%	
販売費及び一般管理費	2,492	2,572	
売上高比	35.8%	35.1%	
営業利益又は営業損失 (△)	△295	△436	300
売上高比	-4.2%	-6.0%	2.7%
経常利益又は経常損失 (△)	△249	△324	260
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△183	△249	180

※1 連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております ※2 前年同期の単体数値との比較

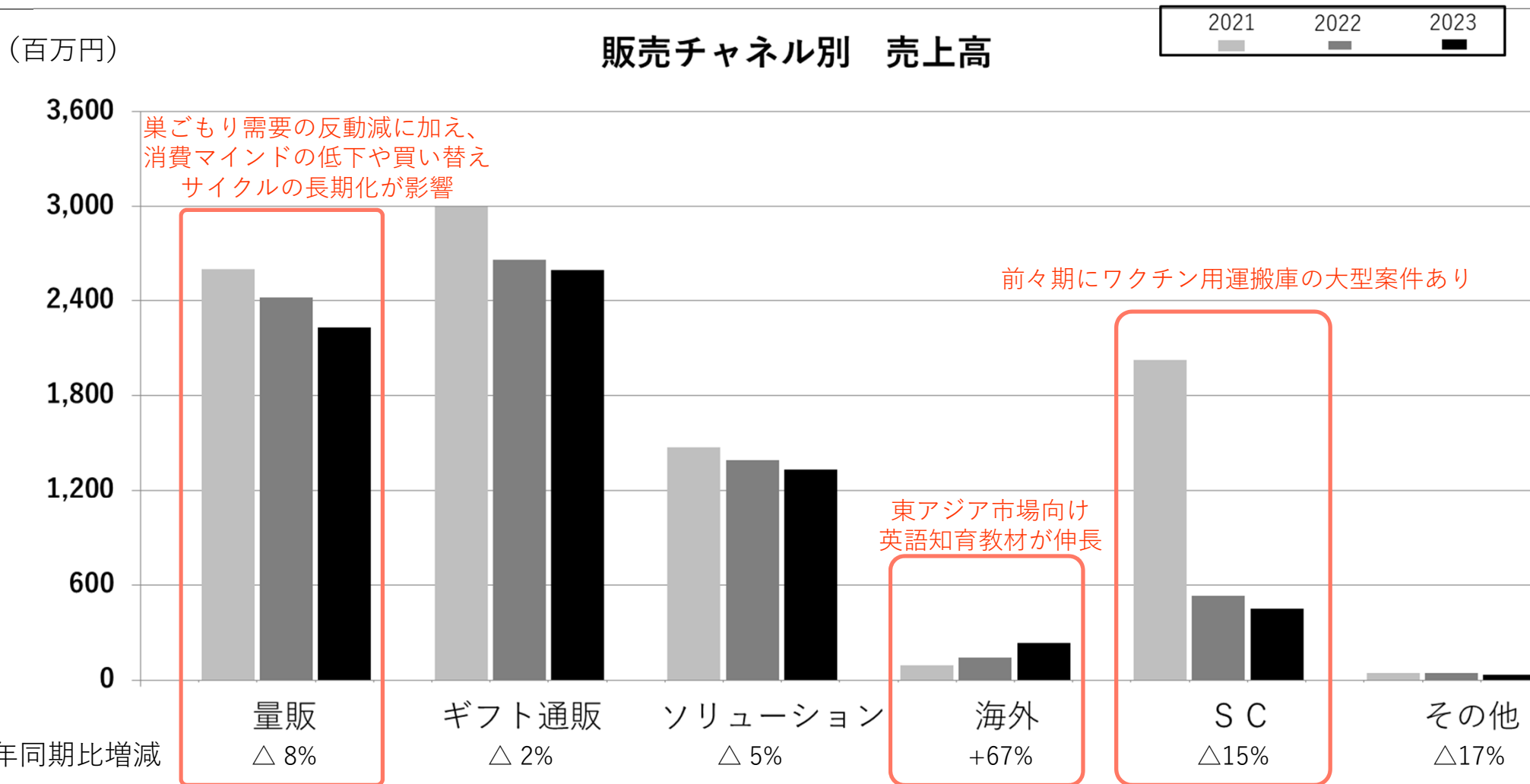
第3四半期（累計） セグメント別業績概況

- 家電製品事業** ・ 消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けて前年同期より減収一方、匠の技術・暗黙知を家電の力で具現化する「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーマーカーは需要期に入ったこともあり販売好調に推移し、また戦略的新製品「匠ブランジェトースター」を昨年11月17日に全国の家電量販店やECサイトなどで発売を開始
- FPSC事業** ・ 米国向けワクチン用運搬庫がコロナ禍収束に伴い販売一巡したため前年同期より減収

単位：百万円	売上高		セグメント利益（営業利益）	
	2023年度 個別3Q実績	2022年度※ 連結3Q実績	2023年度 個別3Q実績	2022年度※ 連結3Q実績
家電製品事業 売上高比	6,469	6,754	250 3.9%	132 2.0%
FPSC事業 売上高比	483	566	123 25.5%	139 24.6%
調整額			△668	△708
全社 計 売上高比	6,952	7,320	△295 △4.2%	△436 △6.0%

※連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております

第3四半期（累計） 販売チャネル別 売上高の推移

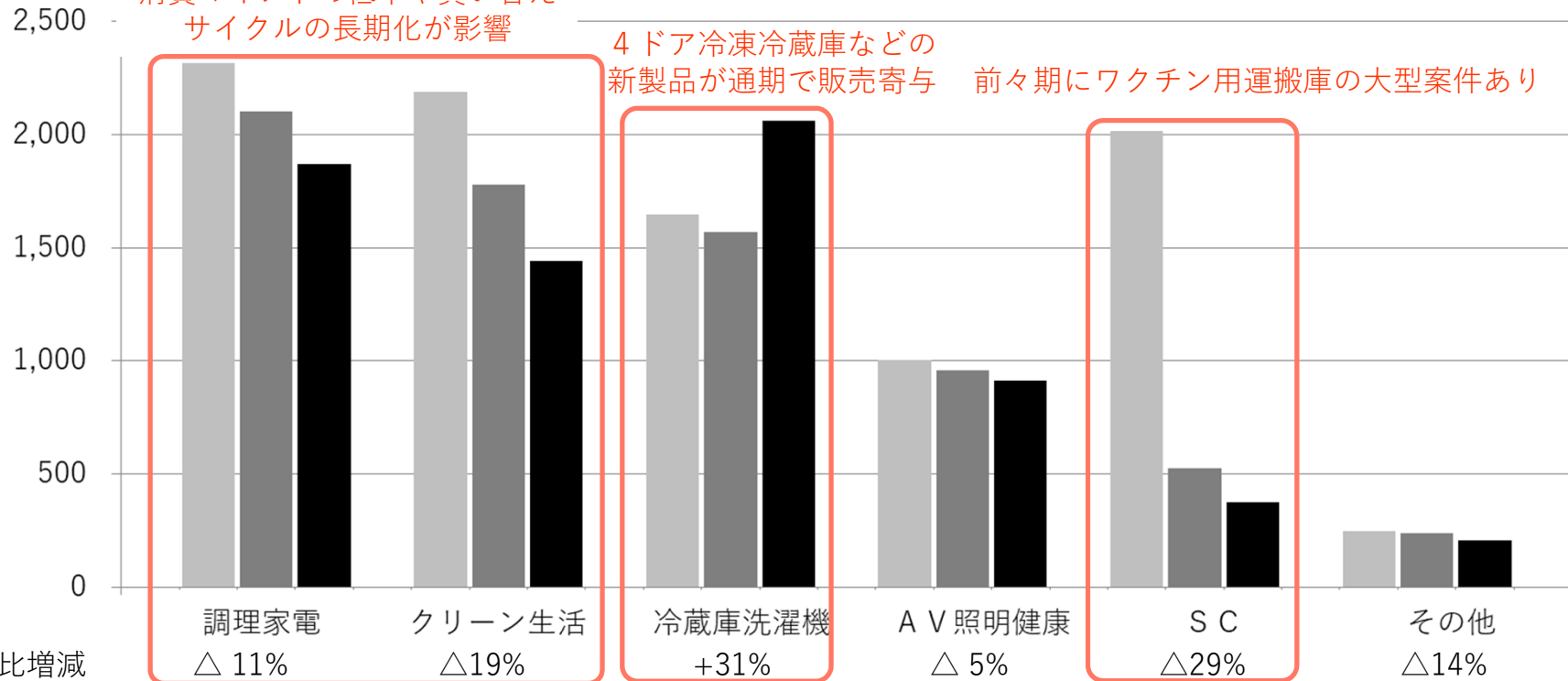


第3四半期（累計） 商品ジャンル別 売上高の推移

(百万円)

巣ごもり需要の反動減に加え、消費マインドの低下や買い替えサイクルの長期化が影響

商品ジャンル別 売上高



4 ドア冷凍冷蔵庫などの新製品が通期で販売寄与 前々期にワクチン用運搬庫の大型案件あり

前年同期比増減



全自動
コーヒー
メーカー
CM-D465B



匠ブランジェ
トースター
TS-D486B



中身が見える
冷蔵庫
HR-EI35B



2 ドア
冷凍冷蔵庫
HR-GJ12B



東アジア市場向け
英語知育教材
BR2JP
© Disney

第3四半期末 貸借対照表

新生活商戦の売上債権の回収が進み総資産を圧縮 配当と四半期純損失の計上により純資産も減少
自己資本比率は73.6%と引き続き財務安全性の水準は高く、今後の事業展開に向けた戦略的投資を継続

単位：百万円	2023年度 3Q末	2022年度 前期末	増減		2023年度 3Q末	2022年度 前期末	増減
現預金	938	861	77	仕入債務	213	232	△18
売上債権	1,266	2,154	△887	短期借入金	600	400	200
棚卸資産	3,120	2,562	558	長期借入金	747	920	△172
その他	457	496	△38	その他	1,253	1,439	△185
流動資産 計	5,784	6,074	△290	負債 合計	2,815	2,992	△177
有形固定資産	3,716	3,892	△175	資本金・資本剰余金	5,143	5,129	14
無形固定資産	426	381	45	利益剰余金	2,601	2,926	△324
投資その他資産	742	783	△40	その他	109	82	26
固定資産 計	4,886	5,056	△170	純資産合計	7,855	8,138	△283
資産 合計	10,670	11,130	△460	負債&純資産合計	10,670	11,130	△460
				自己資本比率	73.6%	73.1%	0.5pt

目次

1. 2024年2月期 第3四半期（累計）決算概要

2. 2024年2月期 通期業績予想

3. 第4四半期の取り組みについて

補足資料：四半期別業績数値

2024年2月期 通期個別業績予想（2023年4月12日公表値から変更なし）

- 長期にわたり製造コストが高止まりする環境の中、昨年9月5日に家電製品の5%以上の価格改定を実施
また匠ブランジェトースターは、高いデザイン性と匠の技で焼きたてパンを再現する卓越した機能が大変好評となり、発売から年度末までの4ヵ月間で約2万台、当初計画の約4倍の販売を見込む さらに需要期である新生活商戦に向けて、当第3四半期に続き、冷凍冷蔵庫・全自動洗濯機などの生活必需品の新製品を続々と投入、売上高の伸長を図る
- 新商品開発投資を継続しながらも、原価低減活動や物流費の圧縮、経費削減を実行し、さらなる収益性の改善を図る
変動費率を低減し損益分岐点を引き下げるとともに、売上高の伸長により当第4四半期は大きく業績が向上する見込み
- FPSC事業の注力4分野のうち、燃油検査や温度校正分野において北米・欧州を中心とする多くのメーカーに採用拡大
医薬・バイオ分野においては、需要が拡大する細胞凍結保存領域の開拓を進める
- 当社のFPSC技術は、低温から極低温の温度領域では、同じ空間に搭載する場合においてコンプレッサより冷凍能力が高い
この特長を活かして、需要拡大が見込まれる医薬品保管・搬送の市場を中心に利用領域を拡大

単位：百万円	2023年度	2022年度		
	通期 個別業績予想	通期 個別実績	前期比 差額	前期比 変動率
売上高	11,000	10,838	162	1.5%
営業利益	300	42	257	598.8%
売上高比	2.7%	0.4%	2.3pt	
経常利益	260	147	112	76.8%
当期純利益	180	57	122	213.1%

目次

1. 2024年2月期 第3四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 第4四半期の取り組みについて

補足資料：四半期別業績数値

家電製品事業：①家電製品の出荷価格改定

弊社は、家電製品について2023年9月5日より出荷価格を順次改定いたします。

日米金利差を背景とした円安の長期化、海外製造委託先における人件費高騰などを背景に調達価格が上昇しております。また、全世界的なエネルギー資源の価格高騰によるインフラ料金の上昇により、家電業界のみならず多くの業界において製造コストの上昇が続いております。

このような外部環境の中、弊社と致しましては、設計や製造工程の見直しに加え、海外製造委託先との価格交渉によるコストダウンを一層強化するとともに、引き続き販管費の圧縮などのローコストオペレーションによる経営努力を徹底してまいりました。

しかしながら、長期にわたり製造コストが高止まりする環境の中、弊社の経営努力のみでは到底吸収出来ない水準に達しております。上記の理由から、2023年9月5日より下記の通り、出荷価格の改定をさせていただきます。

記

- | | |
|-----------|--|
| 1.対象カテゴリー | キッチン家電製品（電子レンジ、調理家電、冷蔵庫など）
リビング家電製品（掃除機、照明、空気清浄機など） |
| 2.価格改定率 | 現行出荷価格の約5%以上 |
| 3.価格改定日 | 2023年9月5日出荷分より順次 |

家電製品事業：②戦略的新商品 匠ブランジェトースターを投入 (11/17発売済)



Takumi Premium



GOOD DESIGN AWARD 2023

BEST 100

昨年11月発売の匠ブランジェトースターは、2023年度グッドデザイン・ベスト100に選出された高いデザイン性と、匠の技で焼きたてパンを再現する卓越した機能がお客様に大変ご好評をいただいております。発売から年度末までの4ヵ月間で約2万台、当初計画の約4倍の販売を見込んでおります。



家電製品事業：③新製品の集中投入（第4四半期に投入予定）

需要の大きな生活必需品カテゴリーのラインナップを拡充中



Hzフリー
電子レンジ
2月発売予定



衣類乾燥除湿機
4.0L
2月発売予定



全自動電気洗濯機
5.5kg
2月発売予定



2ドア冷凍冷蔵庫
121L
2月発売予定



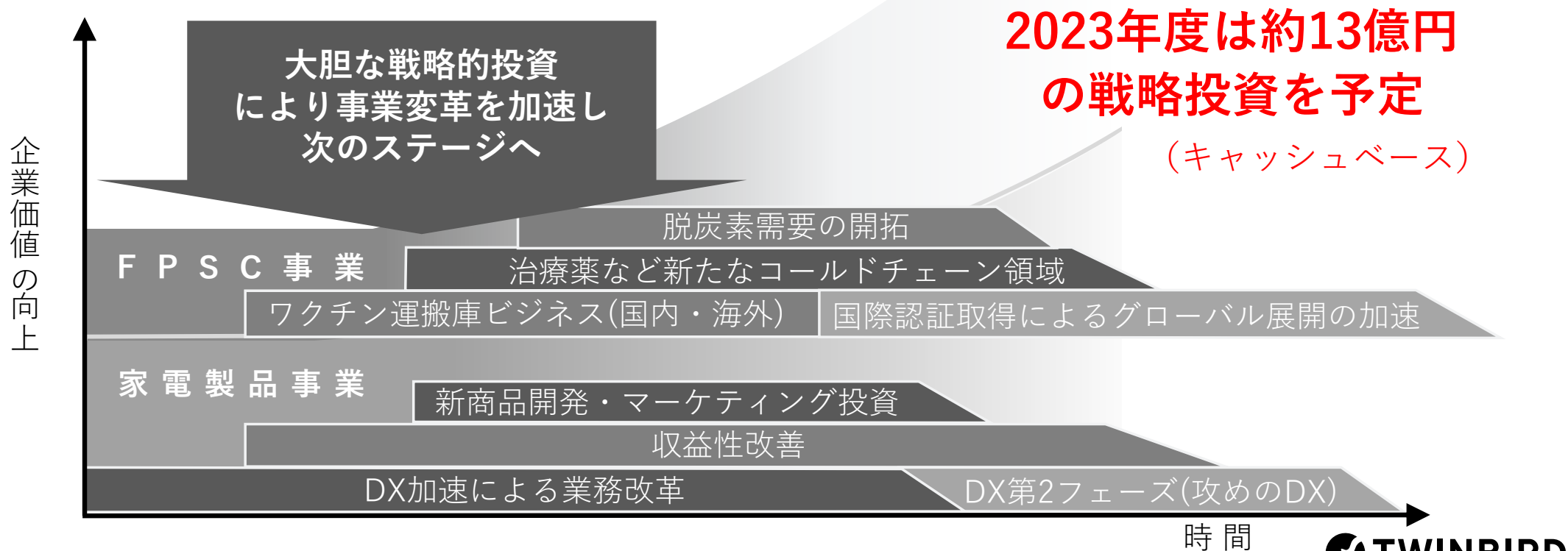
2ドア冷凍冷蔵庫
231L
2月発売予定



家電製品事業：④原価低減（海上運賃含む）／⑤経費節減

- ・ VA/VE活動を含む原価低減を継続的に実施
- ・ 創意工夫により経費節減を推進

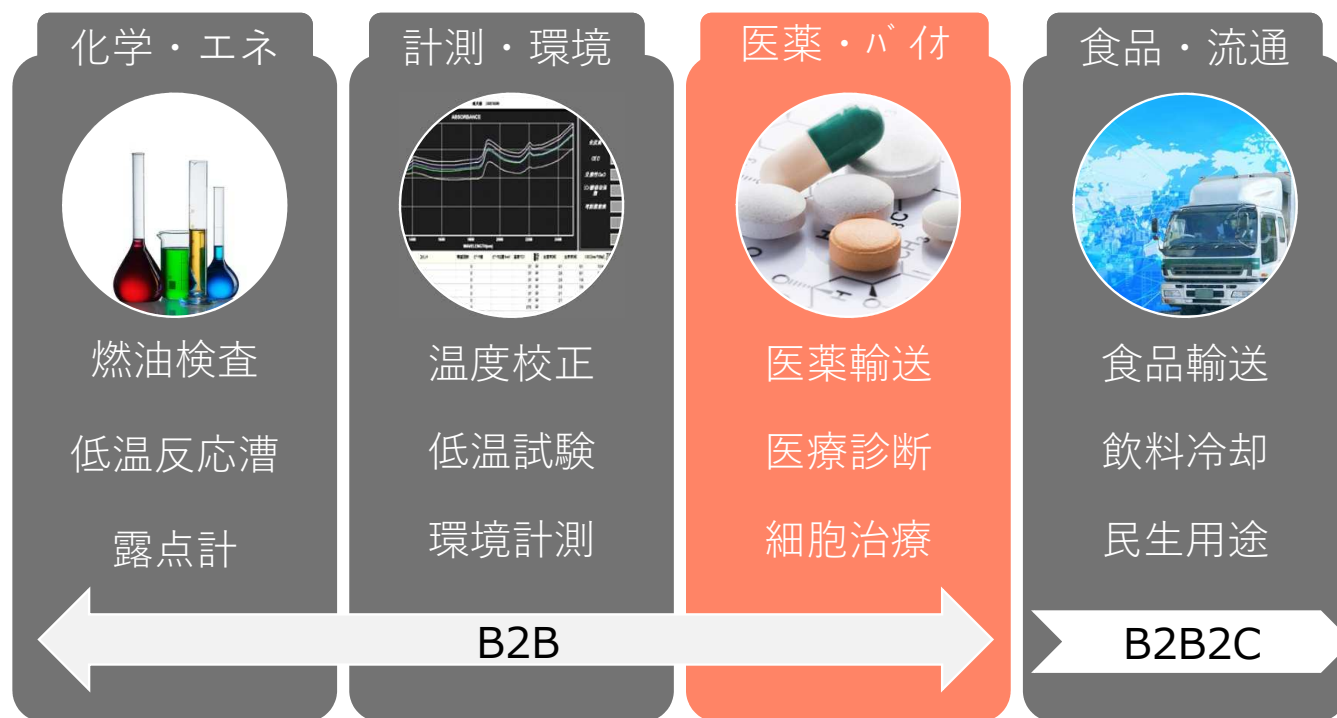
→戦略的投資は計画通り継続し、将来の事業拡大を目指す



FPSC事業：注力4分野と主要な地域

- 4分野に注力し、重点顧客との取引深耕と成功事例の横展開により、事業規模の拡大を図る

注力4分野



※新冷却技術 FPSC (フリー・ピストン・スターリング・クーラー)

主要な地域

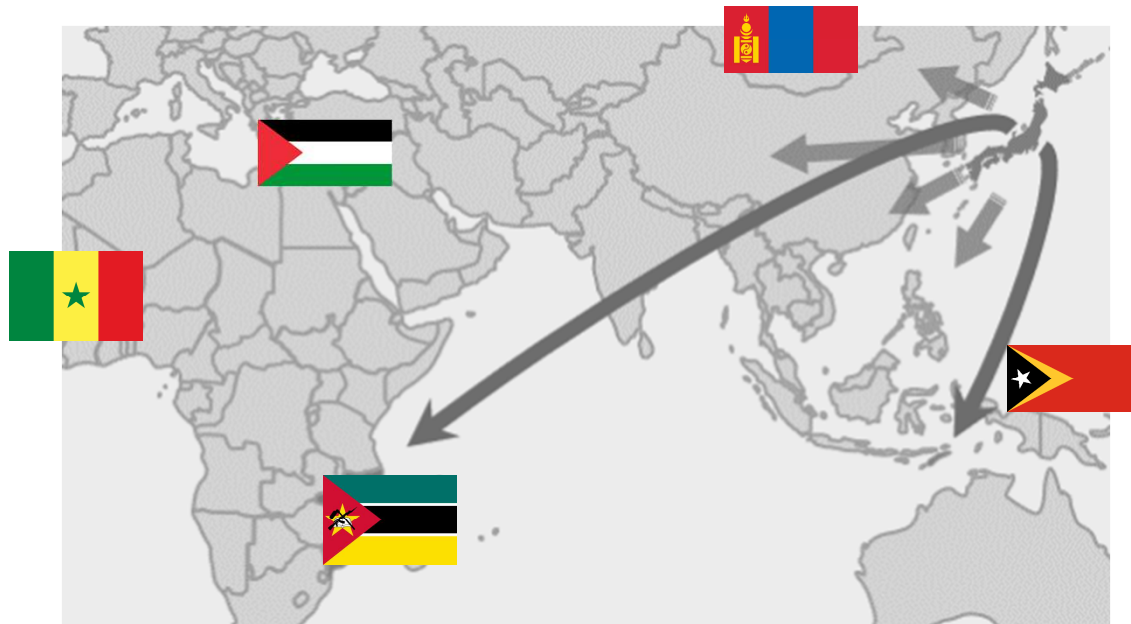
北米および欧州



FPSC事業：「ラスト・ワン・マイル支援」を通じた海外展開

新型コロナウイルス感染症対策への国内貢献実績をアフリカ・アジア各国に展開中

2021年度よりJICAと連携し「ラスト・ワン・マイル支援」（日本政府によるODA）を通じて、東ティモール、モザンビーク、セネガル、モンゴルにワクチン運搬庫を納入いたしました
2023年11月 中東パレスチナに出荷済、今後も各国へ国際貢献活動の拡大を継続してまいります



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

写真提供：JICA
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

FPSC事業：「国際認証取得」によるグローバル展開の加速

「国際認証取得」に向けた活動 ～世界のユーザーにお選びいただくためのパスポート～

WHO認可による医療機材の認証制度であるPQS(Performance, Quality and Safety)認証は
国連機関やNGO、慈善団体の機材選定基準
2023年10月末に認証試験を合格、ジュネーブ本部に書類提出し、まもなく認証取得予定

<国際認証> ①事業所の認証 ISO 9001/ISO 14001
②製品の認証 IEC規格(欧州)

PQS認証

ワクチン運搬庫
SC-DF25 ディープフリーザー
PQSカテゴリー：E003(Refrigerators and freezers)

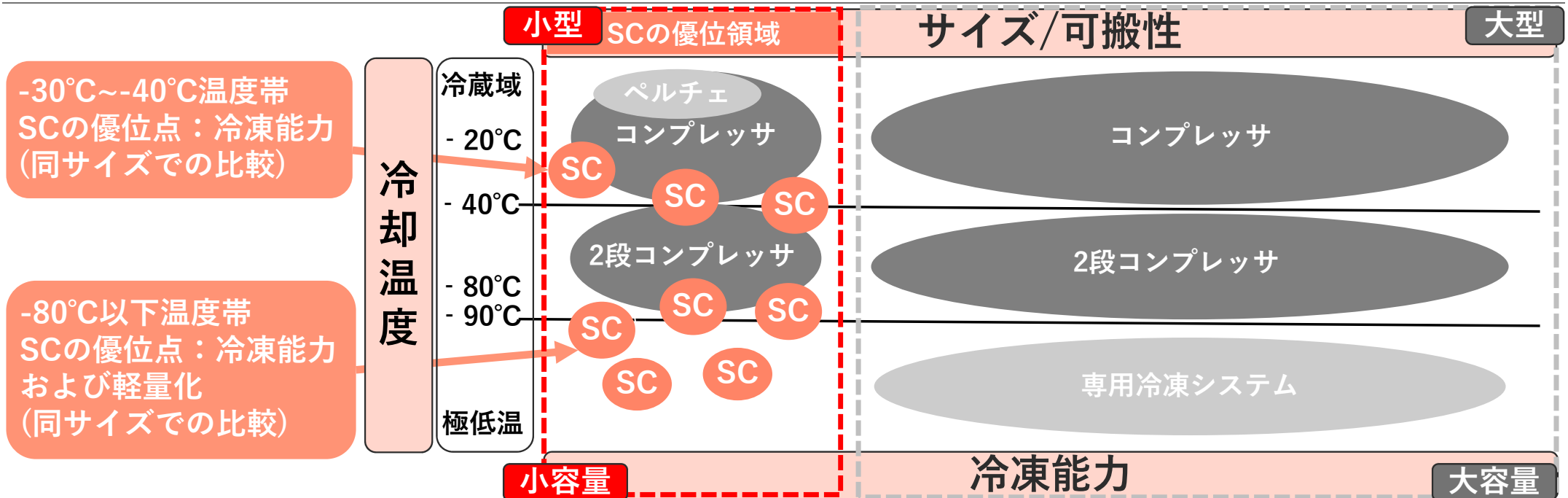
WHO認可の医療機材

社会課題解決に向けた活動

グローバル展開の加速



FPSC事業：スターリング冷凍機(SC)の技術的優位性



-30°C~-40°C温度帯
SCの優位点：冷凍能力
(同サイズでの比較)

-80°C以下温度帯
SCの優位点：冷凍能力
および軽量化
(同サイズでの比較)

-20°C~-40°Cは現状需要がある温度帯
-80°C以下は今後の需要が見込まれる温度帯
(出典：GII超低温フリーザー市場調査レポート)

-20°C~-40°C温度帯への展開強化 (ワクチン搬送、医薬品搬送)

-80°C以下温度帯への展開強化 (細胞搬送、医薬品搬送)

SCの技術的優位性を活かした利用領域の拡大

FPSC事業：脱炭素需要の開拓

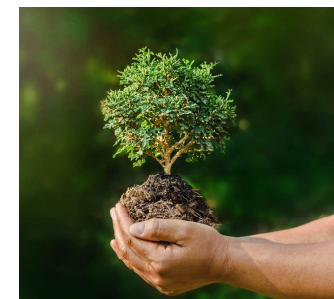


日本政府が進める2050年カーボンニュートラルの実現に貢献
脱炭素に貢献する次世代の産業用冷却装置として
自動車部品業界の一部にて採用決定
今後様々な業界に提案

冷却工程を必要とする製造ライン
排熱による温度上昇を抑えるため
大規模なエアコン設備が必要



FPSC技術の特徴
省電力・低排熱・フロン不使用



使用電力量の大幅な削減

目次

1. 2024年2月期 第3四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 第4四半期の取り組みについて

補足資料：四半期別業績数値

第3四半期（3ヶ月） 損益計算書

単位：百万円	2023年度	2022年度※
	個別 3Q実績	連結 3Q実績
売上高	2,166	2,515
売上総利益	749	864
売上高比	34.6%	34.4%
販売費及び一般管理費	815	820
売上高比	37.6%	32.6%
営業利益又は営業損失（△）	△66	44
売上高比	-3.1%	1.8%
経常利益又は経常損失（△）	△56	76
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△39	49

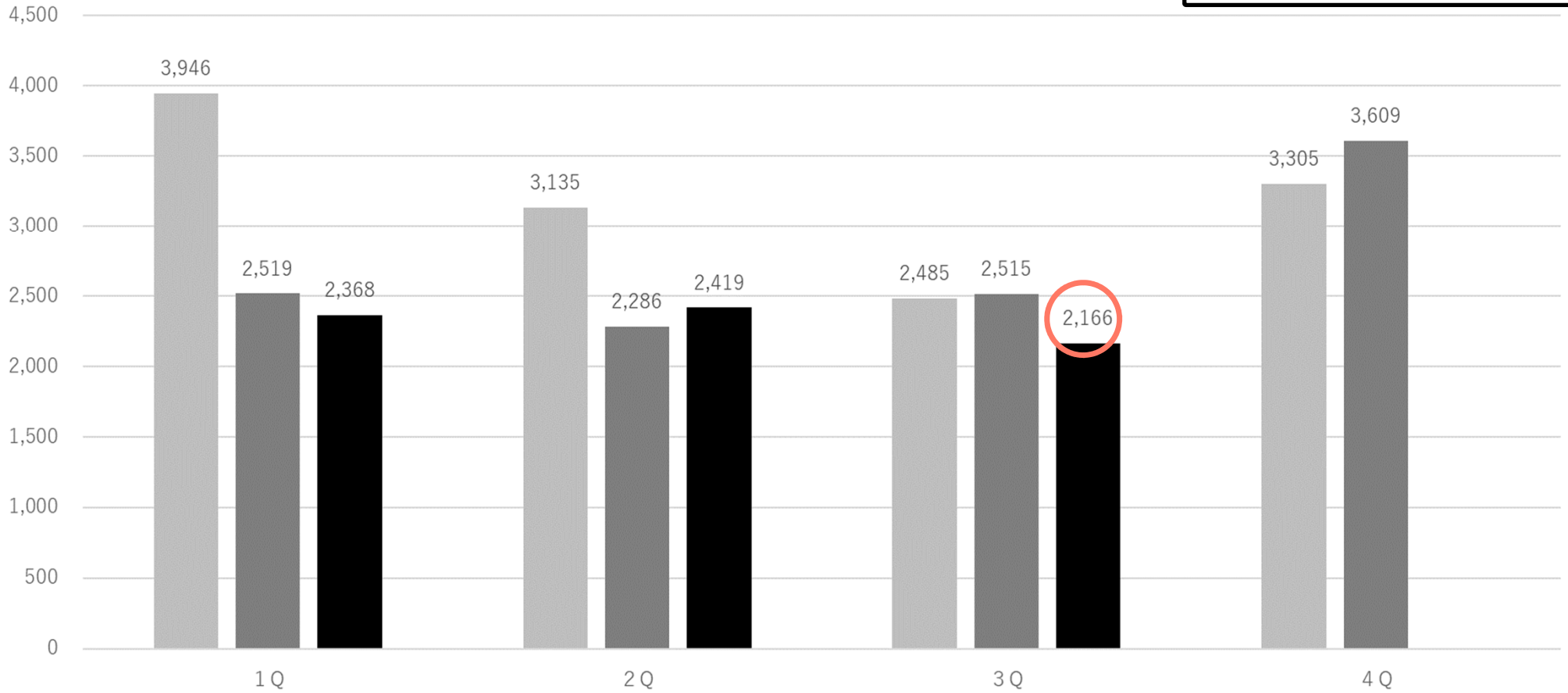
※連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております

四半期別業績数値 純売上高

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

(百万円)

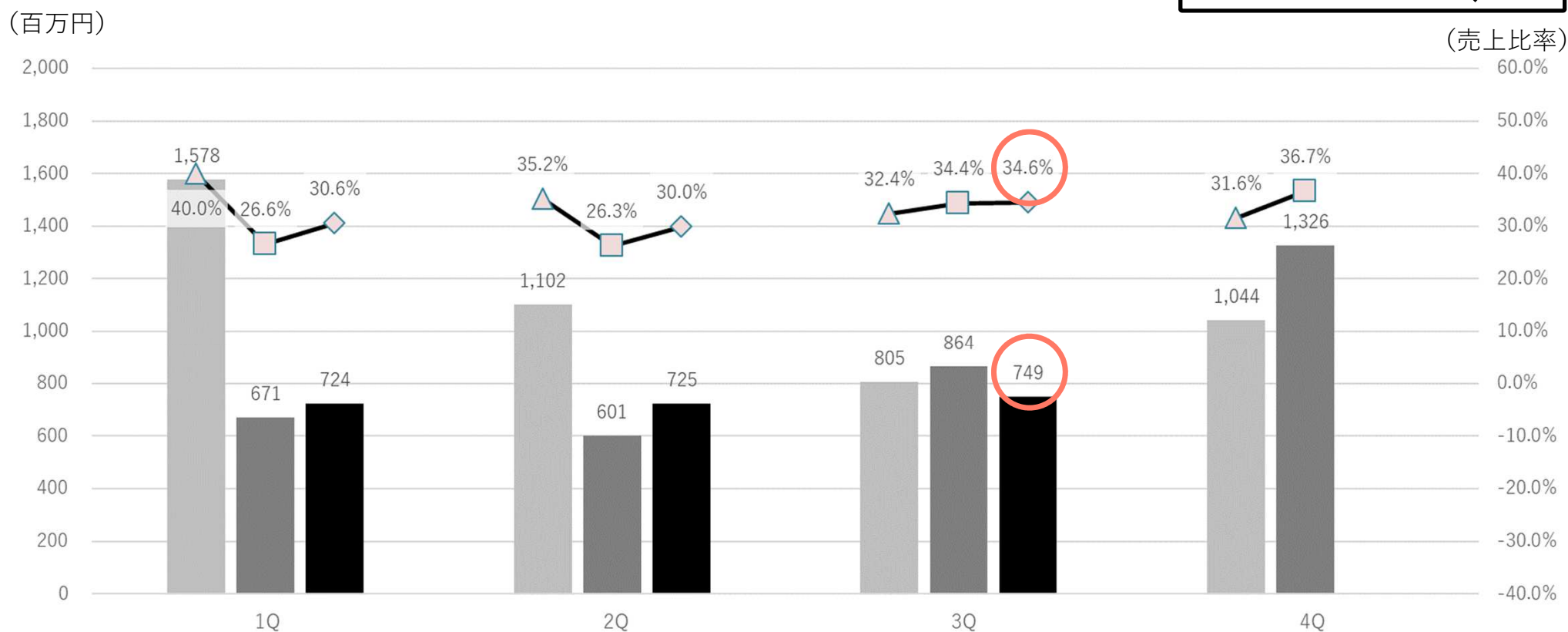
四半期別比較<純売上高>



四半期別業績数値 売上総利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較<売上総利益>



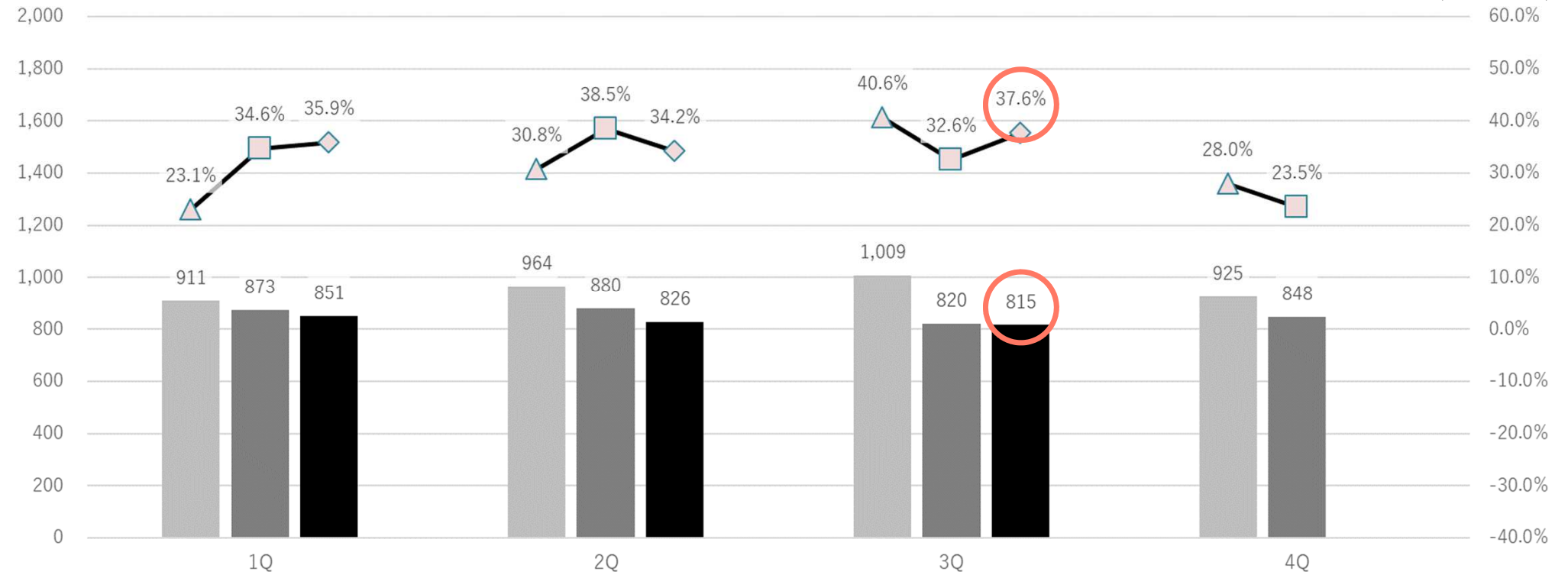
四半期別業績数値 販売費及び一般管理費

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較＜販売費及び一般管理費＞



(百万円)



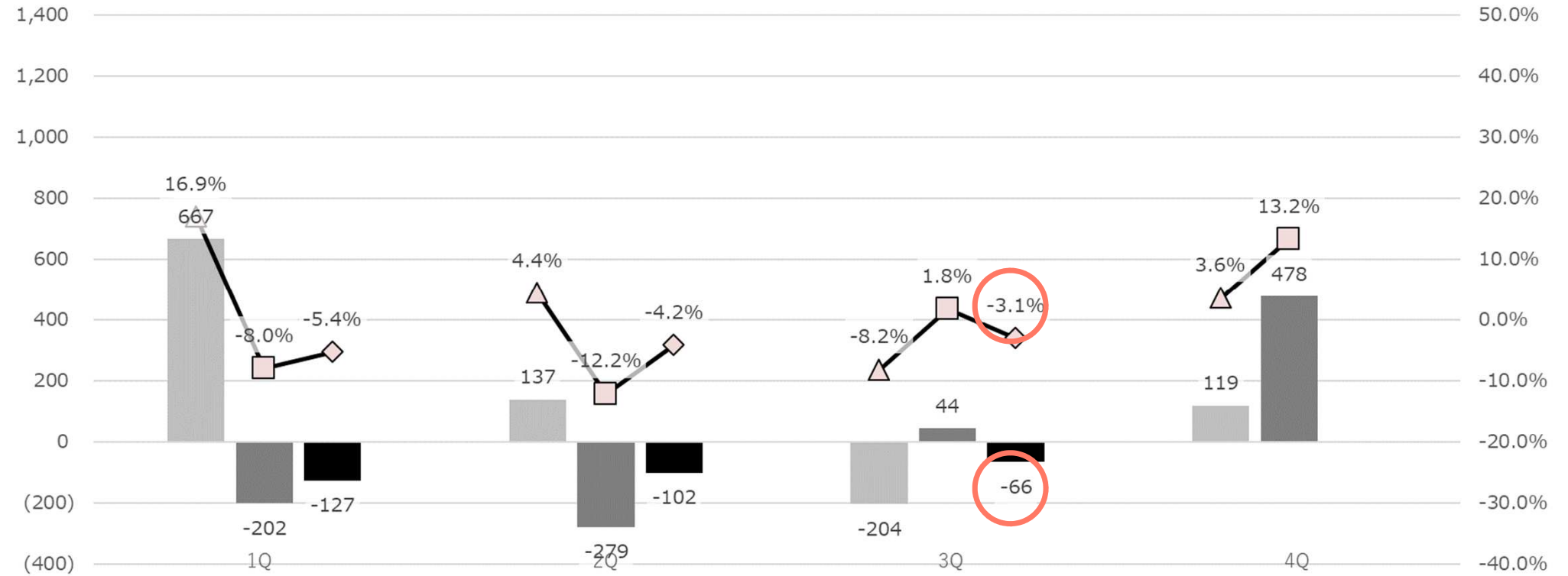
四半期別業績数値 営業利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較<営業利益>



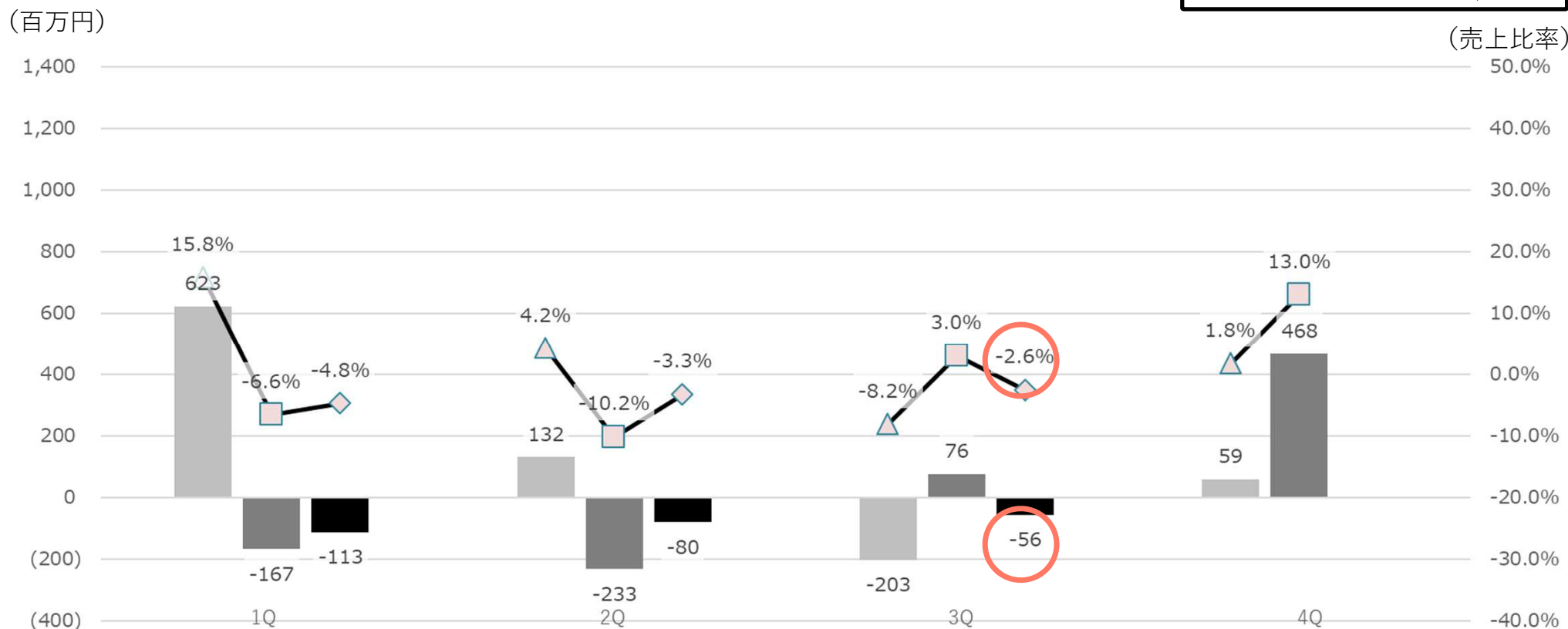
(百万円)



四半期別業績数値 経常利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

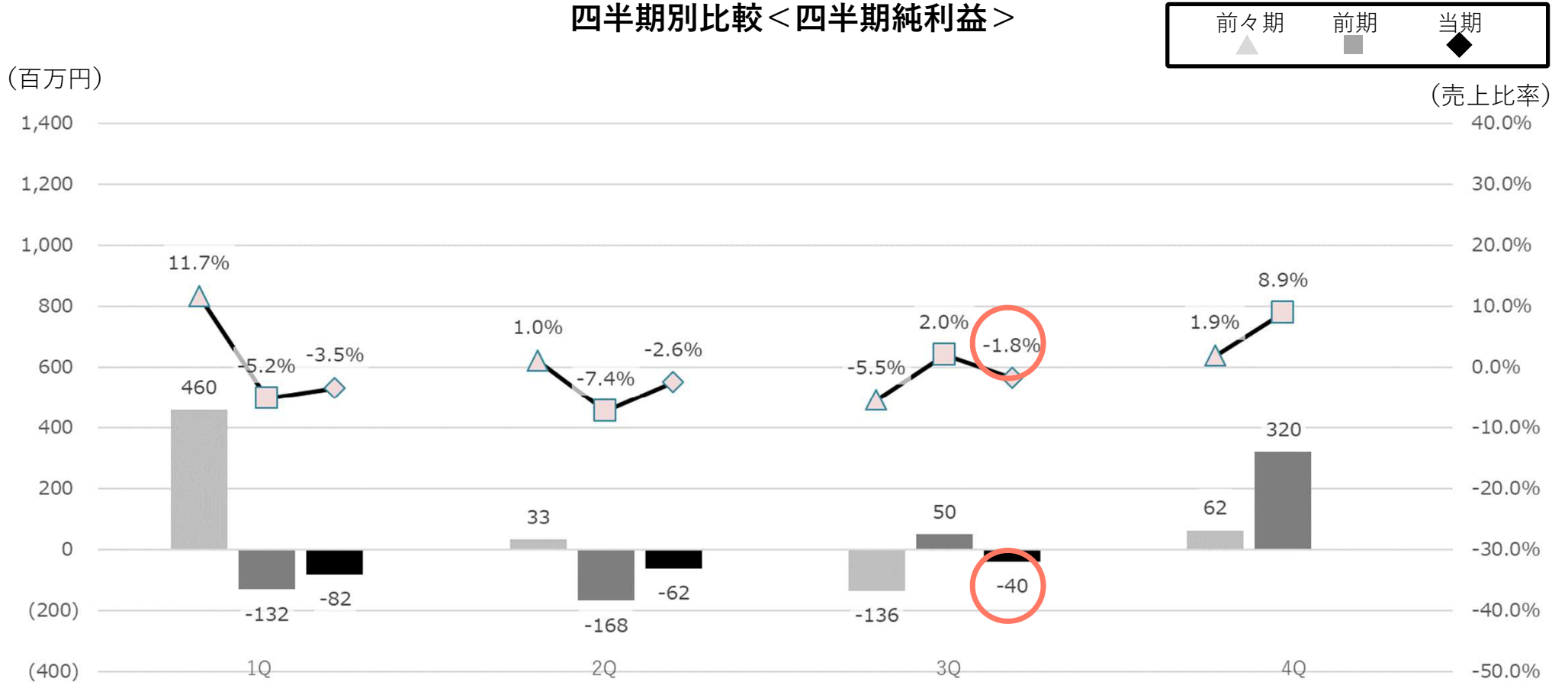
四半期別比較<経常利益>



四半期別業績数値 四半期純利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較<四半期純利益>





TWINBIRD

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 執行役員 企画管理本部 副本部長 井上 淳也 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 最高財務責任者 取締役 企画管理本部 本部長 渡邊 桂三 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。